別紙様式（Ｂ４横型）

学校番号 80

令和 元 年度　学校自己評価表　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立朝倉高等学校長　　印

学校運営計画（４月）			評価（３月）
学校運営方針	校訓「聡明・自立・敬愛」を拠り所とし、一人一人が自己実現を果たすとともに、国家・社会の発展に寄与する人材をを育成する。		A
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標	
「聡明・自立・敬愛」の校訓のもと、本校独自の「桃李プロジェクト」を掲げ、生徒の豊かな人間性育成と確かな学力を身につけさせることに取り組んできた。体育祭やからたち祭（文化祭）などの学校行事や創立110周年記念式典などの式典において素晴らしい成長を遂げた。確かな学力の習得については、キャリア教育を充実させるとともに、ＩＣＴ教育機器を活用した授業改善に積極的に取り組み、アクティブラーニング型授業が実施された。しかし、まだまだ十分とは言えず、国公立大学に５２名しか合格することが出来ていない現状を踏まえ、授業改善と第１希望進路実現が今後の課題である。	１　生きて働く知識・技能の習得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を実現する学習指導	ア　ＩＣＴ機器を活用しながら。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を更に推進する。	
		イ　学習効果を高めるため、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。	
	２　将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践	ア　夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、希望進路実現のために必要な資質・能力を高める。	
		イ　東大などの難関大学進学をはじめ多様な進路実現に応じた計画的、継続的、組織的指導体制を確立する。	
	３　規律と責任を重んじ、自主性や主体性を涵養する生徒指導	ア　基本的生活習慣の確立とともに公共マナー等の指導を徹底する。	
		イ　生徒会活動、部活動、学校行事などあらゆる機会をとおして生徒の自己指導能力を高めるとともに自主性、主体性、チャレンジ精神を培う	
	４　人としての資質を高め、人生や社会に生かす学びの実現	ア　「朝倉Ｉ・Ｃプログラム」についての各取組のＰＤＣＡサイクルを徹底し、カリキュラム・ジメントにより効果的な実践を図る。	
		イ　「福岡県高校生知の創造塾」など学校外で行われる研修等への積極的参加を促す。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	授業の質の向上と指導方法の改善	ガイダンス機能とキャリア教育の充実および学びの方向性の明確化	B	A	A	・新学習指導要領に向けた検討については、教育課程説明会、研修会の内容や大学入試科目等の情報を収集し、本校の教育目標に根ざしたカリキュラム案を作成する。 ・学習評価の改善については、観点別評価を組織的に推進していくための手順や具体策について検討する。 ・課題解決学習を中心としたＩ・Ｃアワーの構築については、各学年・分掌と連携し、本年度の取組をもとに検討を行う。
			「新たな学び」の構築と新たな評価方法を軸とした授業改善	A			
			思考力・判断力及び表現力を問う考査問題の作成	A			
		高大接続改革と新学習指導要領の実施にむけたカリキュラム・マネジメント	大学入学共通テストに向けた授業強化	B	B		
			コース編成の在り方の検討	A			
			新学習指導要領実施に向けた検討	C			
		朝倉Ｉ・Ｃプログラムの推進と地域・中学校との連携の強化	課題解決学習を中心としたＩ・Ｃアワーの構築	A	A		
			郷土、社会との関わりを深める内容の充実と地域の教育資源の活用	A			
			学校説明会等への積極的な参加と内容の充実による生徒募集の強化	A			
	総務広報課	「中学生が受検したい高校」となるよう、効果的な広報戦略を企画し受験生増を目指す。	年５回発行する「朝高ニュース」の紙面再構成を行い、より広報効果を高める。	A	A	A	・学校案内パンフレットやポスター、HPを見やすく印象的なものにする。また、中学生の実態や社会状況に合った広報の方法を、在校生のアドバイス等も取り入れて検討する。 ・学校行事の企画立案に早期に取りかかり、要項を早く職員に提示することで、準備を十分に行い内容を充実させる。
			本校ホームページを最低月１回以上は確実に更新し、より効果的な発信を目指す。	A			
			６月開催予定の小郡市対象の学校説明会を成功させる（最低６０名確保）ように企画・運営する。	A			
		ＰＴＡ、同窓会、後援会との連携をより充実させ、本校全体の教育活動効果をより高める。	学友区懇談会がより継続しやすくなるように、現行システムからの効果的変革を進める。	B	B		
			年間８回のＰＴＡ役員会や各種委員会開催等に関する早めの調整を進める。	B			
			より効果的な連携を念頭に、ＰＴＡ関係諸行事の見直しを必要に応じて進めていく。	B			
		学校行事のより円滑的な運営を目指し、儀式関係等の企画立案を早めに進めていく。	年間・月別行事予定を作成・提示し、教育活動の円滑化に寄与する。	A	A		
			開校記念行事等、必要に応じて同窓会等との打ち合わせを早めに進めていく。	B			
			ＩＣＴ活用推進委員会と連携しながらＩＣＴ関係機器の円滑な運用・維持を目指す。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	研修課	主体的・対話的で深い学びの創造	ＩＣＴ活用・ＡＬ推進のための校内研修の実施	B	B	A	・異教科間でＩＣＴ活用やグループワークの具体的方法を紹介し合う情報交換等を行い、全教科において思考力や表現力の向上につながるＩＣＴ活用方法やＡＬの手法を学ぶ。 ・人権学習の中で、ネット差別等新たな人権問題について生徒に考えさせる題材を研究する。
			公開授業・実践発表会の開催	B			
			年２回・全クラスで授業アンケートの実施	A			
		生徒の生命と権利を守るための職員研修の推進	自殺防止（精神的危機にある生徒への支援）のための職員研修会の実施	A	A		
			特別支援教育（発達障害への支援）のための研修会の実施	A			
			いじめ防止を人権教育の観点から考察する職員研修会の実施	B			
		人権教育・主権者教育・教育実習の充実	ＬＧＢＴへの理解を深めるための人権教育の実施	A	A		
			地域の選挙管理委員会と連携した模擬立会演説会・模擬投票の実施	A			
			教育実習の事前指導（教科・生徒指導・マナー）の徹底	B			
生徒育成部	生徒育成課	基本的生活習慣の育成およびマナーの向上	大きな声での挨拶を基本とし、他の基本的生活習慣も定着した生徒の育成を図る。	A	A	A	・挨拶、交通マナー等は次年度も継続して指導していく必要がある。 ・からたち祭、体育祭等校内の活動を外部に周知し生徒の活動の場面を地域の皆様に見て頂き信頼を得ていく。 ・SNS等に関連する問題は、目に見えないところで発生する。このことを踏まえてきめ細かな指導を行い、問題を未然に防ぐ努力を継続していく。
			他者への配慮を行うことができ、地域に信頼される生徒の育成を図る。	B			
			いじめがなく、いじめを許さない生徒の育成を図る。	A			
		生徒会活動および部活動の活性化	生徒会活動をとおして主体的に行動できる生徒の育成を図る。	A	A		
			部活動をとおして規範意識の向上を図る。	B			
			体育祭・からたち祭や、部活動の結果の情報を発信し、地域の活性化を図る。	A			
		安全意識の向上	交通安全意識の向上を図る。	A	A		
			インターネット上の危機管理意識の向上を図る。	A			
			日常生活に潜む危険への危機管理意識の向上を図る。	A			
	保健課	健康教育活動の推進	健康状態を把握させ、自主的に健康管理を行うことができる資質や能力を育成する。	B	A	A	・保健だより等を活用し、家庭との連携を図り、生徒の健康意識を高めさせられるかが課題である。 ・清掃について、徹底出来ていない部分があり、美化コンクール等の厚生局委員会の活発な活動を通して、校内美化を促したい。 ・月一回の教育相談・いじめ防止対策委員会を、更に効果的にするために、その実施方法を検討する。
			専門医やｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰによる相談活動を、積極的に利用させ、指導・助言を受けさせる。	A			
			毎月発行の保健だよりや啓発・推進の掲示物を充実させ、タイムリーな情報を発信する。	A			
		環境美化意識の高揚と清掃の活性化	全生徒が、身の回りを常にきれいに保とうとする意識をもって生活する態度を育成する。	B	B		
			厚生局員自身が意識を高め、さまざまな環境美化活動の活性化に努める。	B			
			美化コンクールを実施し、清掃状況の評価を伝え、各清掃担当者に責任を持たせる。	B			
		生徒支援体制の充実	教育相談委員会･学年会を通して、情報を共有し、全教職員が連携して生徒を支援する。	B	A		
			年度始めに情報交換会を２回実施し、共通認識のもと教育活動ができる体制をつくる。	A			
			外部講師を招き、教職員に対して発達障害と自殺予防に関する研修会を各１回実施する。	A			
進路指導部	進路指導課	最終学年での国公立大現役合格者数９０名を目標とした指導体制の確立	進学指導委員会（教科担当者会議）を開き、指導の方向性を確認する。	A	A	A	・課外授業や補習等での指導は充実している。一方、課外受講率は十分とはいえない。受講率を向上させる工夫が必要である。 ・総学及び総探の時間に、効果的にキャリア教育を組み込んでいく必要がある。 ・図書館の利用や委員会活動は目的を十分に達成している。来年度も継続していきたい。
			過年度生のデータを検証・活用し、進路指導、教科指導、担任指導を通して高い目標に向かって努力する生徒を育成する。	B			
			課外授業、朝高セミナー、ハイレベル講座を実施し生徒の学習意欲と学力を向上させる。	A			
		キャリア教育の充実	生徒の興味関心と関連・派生させた学問及び職業研究を企画実施する。また、その成果を表現する能力を育成するために、効果的な小論文指導を行う。	B	A		
			大学別説明会、オープンキャンパス、職業体験に参加する機会を設ける。	A			
			進路情報の発信及び進学関係資料を充実させる。	A			
		読書活動の充実	図書館オリエンテーションや広報活動等により、図書館利用を促す。	A	A		
			生徒・職員の購入希望図書について選書検討を行い、蔵書の充実を図る。	A			
			図書館カウンター当番、「図書館だより」の発行、クラス読書会の運営等をとおして生徒図書局委員の活動を活性化させる。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
第１学年	基礎学力を定着させる。	予習復習や授業の受け方について丁寧かつ継続的なガイダンスを行う。（DIY＋各考査毎＝６回）	A	A	A	・校外の研修にも積極的に参加し研鑽を積むことで授業の質を向上させ、生徒の学習に対する興味関心の喚起を図る。また、予習復習を徹底させ、学習効果が高まるよう指導する。 ・社会人として身につけるべきマナーの定着を図る。また、リーダー育成と同時に、周囲に配慮できるフォロワーシップを持った生徒を育てる。 ・常日頃から生徒の様子に目を配り声をかけ、生徒との信頼関係を築く。また教員同士で情報の共有を行い、学年全体で問題の解決を図る。
		授業内容理解を促すICT機器の効果的な活用方法について同教科、異教科間でノウハウを共有する。（月１回以上参観）	B			
		生徒が学力の伸長度を自己診断でき、やる気を引き出せるような評価を実践する。	A			
	基本的生活習慣を定着させるとともに、人間的成長を促す。	１カ年皆勤達成率、学年で６０％を目指す。	B	B		
		学校内だけでなく、登下校中のルールやマナーを理解させ遵守するよう指導し、外部からの苦情ゼロを目指す。	B			
		学校行事、生徒会活動、部活動への積極的参加を促し、部活動加入率９０％以上を目指す。	A			
	知的好奇心を涵養する。	希望生徒に対して、難易度の高い教材や応用的学習にチャレンジさせる機会を設け、難関大学を目指すための土台作りを行う。（月１回程度）	A	A		
		「探究」の時間等を活用し、社会問題や時事的問題への関心を喚起し、自分の意見を考え発表する場を設定する。	A			
		校内外の様々な研修を積極的に案内し、学年全体の２０％以上が何らかの研修に１回以上参加するよう促す。	B			
第２学年	学力の定着	進路目標を設定させ、授業に集中させると同時に、課外・補習等にも主体的・継続的に取り組ませる。	B	B	A	・二者面談や学年集会等を行うのと同時に、クラスにおいて学習する雰囲気になるためのルールを作らせる。クラスがその雰囲気になれば、集団の学習意欲も湧き家庭学習も定着するのではと考える。また、受験に向けて一人一人のスケジュールを管理させ計画的に学習させる。 ・生徒が自主的に活躍できるように、学校行事のみならず、あらゆる場面でリーダーやサブリーダーを設け考えさせながら行動させる。
		上位層から下位層まで全ての生徒に対して「分かるまで授業（個別指導）」を実施する。	B			
		個人面談、学習の記録を活用しながら、２４時までには就寝する等の基本的生活習慣を確立させる。	B			
	社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）の育成	学校生活全般を通じて、主体的に物事に積極的に挑戦する力を育成する。	A	A		
		探究活動や小論文指導等を通じて、理論的思考力を育成する。	A			
		学校行事等を通じて、多様な仲間と共に、目標に向けて協働する力を育成する。	A			
	リーダーとなる人材の育成	一人一人が時間厳守や挨拶励行ができる等、規律ある学校生活を身に付けさせる。	A	A		
		ＡＬ等による活動を通じ、特定の分野におけるプロフェッショナルを多く育成する。	B			
		校外で行われている活動等にも積極的に参加させる。	A			
第３学年	基礎学力の充実と応用力の養成	挨拶の励行を徹底し、毎日元気に学校生活を送る指導をする。	A	A	A	・課外不受講者をなくすように、年度初めに趣旨説明をしっかりと行い、学力補強の必要性を自覚させ、３カ年間通して参加するよう指導する。 ・難関大学や国公立大学などに対する意識を高めるため、大学訪問や出前授業などを１年時から企画するために、進路指導部と連携する。 ・学校行事等において、生徒に主体的に関わらせるような取り組みを、１年時から取り入れていきたい。
		時間厳守（５分前行動）と掃除の徹底に取り組ませ、配慮する姿勢を育てる。	A			
		安易な理由で遅刻や欠席をしないよう、激励を続ける。出席率９９％	B			
	面談等を通しての早期の進路決定	１学期中に第１希望校を決定できるよう面談等で指導する。	A	A		
		国公立大学９０名以上、難関大学１０名以上を目標に指導する。	A			
		日頃の正課授業、課外授業等を積極的に取り組ませる指導をする。出席率９８％	B			
	最高学年としての自覚を持った学校行事への参加	学校行事への積極的な参加を促し、教員間の連携を取り円滑に進める。	A	B		
		情報交換会を密に行い、正副担任協働による生徒指導を行う。月１回	B			
		教科担当者間での会議を定期的に行い、より効果的な指導改善に努める。月１回	B			